

横浜市立大学後援会 NEWS LETTER

2011



会長挨拶

横浜市立大学後援会会長 馬場 彰



会員の皆様におかれましては、日頃より後援会活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

また、この度の東日本大震災により被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。幸いにも本学では学生全員の無事を確認いたしましたが、生家が津波で流されたり、地震による倒壊など40数名の学生が被害に遭いました。一刻も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

さて、後援会の活動目的は「横浜市立大学の教育研究事業および学生生活の支援等を行うこと」と会則に定められております。その趣旨に則り、教育研究活動への補助・課外活動および福利厚生事業に対する助成・国際交流に対する支援・就職や資格取得への助成などを行い、本学学生が充実したキャンパスライフを送る事ができ、横浜市立大学で学ぶことの喜びと誇りをもって学習できるよう様々な支援をいたしております。この冊子でも一部を紹介しておりますのでご覧ください。

今後も後援会の運営にあたっては、理事・監事の皆様、さらに大学関係者の皆様のご協力を仰ぎながら一層の充実発展のため取り組んで行く所存でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



ご挨拶

横浜市立大学長 布施 勉

馬場会長を始め後援会の会員の皆様には、本学に対して様々なご支援をしていただき、心から御礼申し上げます。

現在、世界レベルで大掛かりな社会構造変化が起こっていますが、私は、この「乱世」とも言える社会変動の渦中にあっても堂々と生き抜く力を、学生諸君には養ってもらいたいと思っています。

本年の4月5日に举行された入学式において、私は次のような考えを述べました。

「…3.11の大震災により、私たちは言葉では言い表せないほどの経験をしました。あの数分間の激しい揺れは、日本人の『ものの考え方』を変えてしまった一瞬だったと、語り継がれることになるでしょう。」「今後、大学を含むあらゆる場において、この巨大な変化への対応が求められますが、私たちは、『新しい時代』を創造的に生きていかなければなりません。そういう時に皆さんが横浜市立大学に入学したことは、大変重い意味があるはずです…」。

若者が、しっかりと自分の「価値観」や「人生観」を持って、社会から求められる役割を自分の人生の意味として素直に受け止めて生きていくことは、極めて正しい選択だと断言できます。今こそ、まっすぐに勉強に明け暮れ、自分を鍛え直して、「新しい時代」を生き抜いてほしいと念じています。

今後とも、引き続き本学に対するご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。



市大の地域貢献

後援会常務理事 岡田 公夫
(国際総合科学部長)

今年のNews Letterのテーマは地域貢献です。平成22年度、横浜市大は日経グローバルで大学の地域貢献度ランキング第2位になりました。横浜市の設置する公立大学だから地域貢献が重視される、というだけの話ではありません。地域貢献が教育と結びついているところが横浜市大の教育のミソなのです。

実際にどのような活動が行われているのかをまず少しご紹介しましょう。

ヨコハマ起業戦略コースのゼミでは、数年前から黄金町に安心・安全のまちづくりの拠点としてKogane-X Lab.を構えて活動を展開しています。アートによるまちおこしの活動である「黄金町バザール」は、今年はヨコハマトリエンナーレ2011の「連携プログラム」として実施されました。また別のグループは地元金沢八景の再開発に取り組んでいます。教室から外へ出てさまざまな人たちとふれあう中で課題を解決してゆく。最初はどのようにいいかわからず戸惑っていても、しばらくすると地域の人たちとともに、あるいは町の子どもたちを相手に、学生らしいアイデアを出して少しずつ何かをつかんでいきます。行政や地域の団体と一緒にイベントを企画したりガイドブックを作ったり、仲間たちと議論しながらパソコンを駆使しての作業です。自分たちの頭で考え自ら学ぶ、受身の授業から能動的な学習へ。課題解決能力が求められる現代にうってつけの教育環境と言えます。

こうした中、大学も「学生による地域貢献活動支援事業」をスタートさせました。採択された活動のひとつ「YCU のびのびKids、YCU 福島・横浜こども交流キャンプ」は外で遊べない福島県の小学生を招いて横浜の小学生との交流をはかるという企画で、NHKのニュースでも取り上げられていました。国際文化創造コースのあるゼミは、金沢文庫特別展の企画展示（10/15～12/4）に参加しています。学内でも学術情報センターが所蔵する貴重図書を月替わりで展示する活動が注目されています。医学部からも、医療崩壊を教育で防ごうという「医学生と共に学ぶ『医療』の仕組み」（医学科）、「子宮頸がん予防啓発のための出前授業」、「いのちの授業訪問事業」（看護学科）など教育関連の企画が採択されています。

理学系では地域を超えて世界貢献です。木原生物学研究所は、木原均博士が1955年に探索したアフガニスタンをはじめとするコムギ遺伝資源を保存していて、これをアフガニスタンの復興に役立てようというのです。平成22年度にこれまでの研究成果を活用した国家的国際貢献プロジェクト「地球規模課題対応国際科学技術協力事業」に採択され、今年9月にアフガニスタンからの留学生を受け入れました。

経営科学系は神奈川産学チャレンジプログラムで例年県下大学のトップの受賞数を誇っています。これは県内の企業がそれぞれ課題を出し、それに対する改善提案などを競うイベントで、経営系のゼミからいくつものチームが応募して優秀な成績をおさめています。

先生が中心にいて教室で授業するのではなく、教室から外へ出て世の中のさまざまな課題に自らチャレンジする。その中で学生たちはいろいろな人たちと出会い、新たな課題を発見しそれを解決する力を身につけていきます。教育重視、学生中心、地域貢献という横浜市大の3つのポリシーの意味がここにあります。現代の若者に不足していると言われる人間力、コミュニケーション力、課題解決力を実際の社会で育てることが社会に貢献する人材の育成につながります。主体的に学ぶ学生を作るこうした活動を大学と後援会は連携してこれからも強力に支援していきます。

ここで取り上げた活動やその他の学生の活動については市大ホームページをご参照ください。

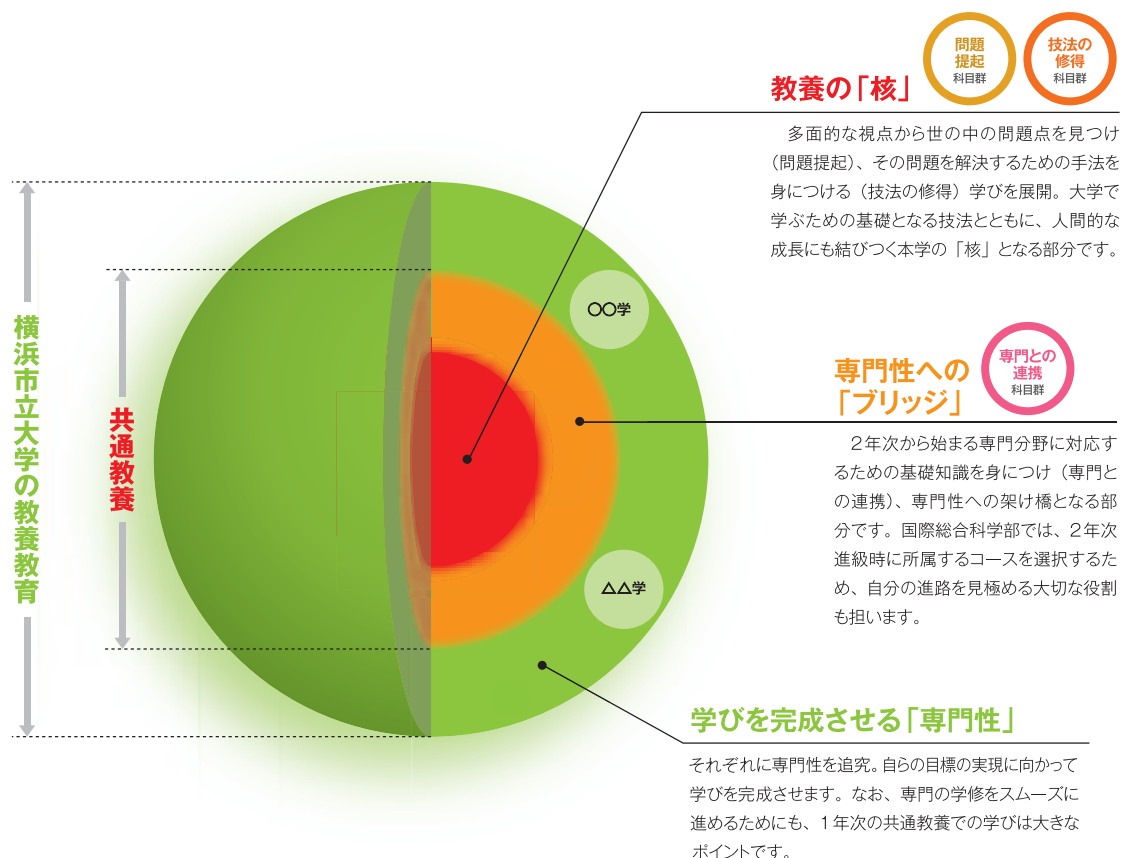
URL : <http://www.yokohama-cu.ac.jp/contribution/newsletter.html>

携帯電話でも右のQRコードを読み取って、ご覧いただくことができます。



大学で何を学ぶか。まず、問題意識をもって自らの固有のテーマを見つける。横浜市大の共通教養教育は個々の学生のキャリア形成のスタートになります。現代社会の課題を見つける「問題提起科目」、課題解決への技法を身につける「技法の修得科目」、専門への懸け橋となる「専門との連携科目」の3つの科目群からなる共通教養で、大学での学びのスタイルを身につけます。知識が早いペースで更新される現代、自らの課題を自覚して生涯学んでいける基礎を培います。

国際総合科学部には7つのコースがあり、専門教養教育を行っています。学生は2年次にコース選択をします。大学に入って勉強してみて自分がやりたいことにはじめて気づくという学生もいます。国際総合科学部では入試区分と異なる分野への進級も一定の条件下で可能です。卒業時に得られる学位は「国際教養学」「学術」「経営学」「会計学」「経済学」「理学」の6種類。少人数のゼミで教育熱心な教員の指導のもと、専門性の光る卒論で自己の課題に挑みます。教養ゼミから卒論まで、教員との距離の近さが市大の特徴です。



国際総合科学部のコース再編

世の中の動きや社会のニーズに柔軟に対応するため、国際総合科学部では、平成24年度入学生から、国際教養学系、経営科学系、理学系に新たに国際都市学系を加えて、4学系12コースに再編します。理学系には生命医科学コースを新設します。

また、学系の学びと深く結びつく大学院を設置しています。

ゼミ活動

ゼミ合宿

国際経営コース 三浦ゼミ
3年 岡部 洸平

三浦ゼミでは、9月11日から伊豆で1泊2日のゼミ合宿を実施した。主目的は、4年生と大学院生の卒論中間発表である。

パソコンとプロジェクターを用いて旅館の大ホールで行われる発表は、いつものゼミとは異なる雰囲気だった。発表者である4年生や院生はもちろん、その発表を聞いて質問する2年、3年生も緊張感を持ち臨んでいた。発表内容は、現在進められているIFRS（国際財務報告基準）とのコンバージェンスに関するものや、最近の会計基準の変更に関するテーマが多かった。その一方で、環境会計や中小企業会計、公会計など独自のテーマを取り扱う先輩もいた。下級生にとっては高度な発表内容であったが、中には鋭い質問で先輩の度肝を抜く下級生もいた。

このゼミ合宿を通じて、4年は卒論をさらに進め、3年は来年の卒論を考え、2年は勉強に対するモチベーションを高めることができる。参加したすべての学生に有意義な合宿だったといえるだろう。

勉強のみならず、1日目の夕食後の親睦会、2日目のクルージングやバーベキューなどのレクリエーションも楽しんだ。丸2日間、合計34名のゼミ生が共に学ぶこのイベントを通じて、ゼミ生の結束力が増したと確信している。



アカデミックコンソーシアム総会参加

ヨコハマ起業戦略コース 青ゼミ 3年 佐々木 翔子

本ゼミでは、環境政策や環境教育を学びに2010年度はスウェーデン、2011年度はマレーシアと小笠原諸島を訪問しました。マレーシア訪問（9月6～12日）は、第2回アカデミックコンソーシアム総会への参加が目的でした。学生交流会では、研究発表を英語で行いました。発表準備では、静脈産業の現状、震災関連で復興に向けた取組み等、紹介したい内容が多岐に渡り、これらを1つのストーリーとしてまとめる作業に苦労しました。野外調査では、英語で話しかけることに躊躇していた学生も自ら進んで話しかけられるようになりました。総会最終日にスピーチする時間をもらいましたので、来年の総会に向けた提案をしました。

提案内容は、学生会議を総会のプログラムの中に設けてほしいこと、環境意識を共有するために共通アンケートを実施したいことなどでした。各国の大学から学生が集結しているというのに、学生同士の交流成果が発表されない、またその意見を反映し合わないのは惜しいことです。今後1年かけ、より質の高い研究発表ができるように取組みたいと考えています。このような貴重な機会を与えてくださった横浜市立大学後援会に心より深く感謝を申し上げます。（アカデミックコンソーシアム詳細はP11をご覧ください）



第2回総会（マレーシア）の様子

卒論集作成補助

後援会では、ゼミ単位での卒業論文集作成について、印刷製本費の補助を行っております。



学びやすい環境

学術情報センター

「学術情報センター（図書館）」では、学生の学習・研究にかかわる様々な情報やサービスを提供しています。授業期間中の平日は22時まで、土日とも19時まで開館しており、授業後や休日にも多くの学生が利用しています。館内には、400席を超える閲覧席のほか、情報探索やレポート作成に利用できるPCやグループ学習に活用できるスペースを備え、学生の様々な学習スタイルをサポートしています。

学習サポートの一環として、図書館職員による学習・研究に沿ったアドバイス（レファレンスサービス）のほか、図書館の活用法を身に付けた学生ライブラリストaffによる相談も受け付けています。また、学生ライブラリストaffは新生向けの図書館案内や、図書館の広報誌・利用案内の作成、企画展示等にも取り組み、学生の視点を取り入れ、図書館をより学生にとって過ごしやすい空間とするための活動を行っています。

♣ 後援会からの図書寄贈 ♣

後援会から毎年多くのご支援をいただき、新しい資料が一層充実しています。平成22年度には、学生の教養や専門知識の習得、日常生活を支援するための資料を中心に約500冊の図書と16タイトルの雑誌をご寄贈いただきました。

中でも学生の日常生活に役立つ図書は、学生が多く利用するスペースに並んでいます。『大学生のための学習マニュアル』や『最低限必要なマクロ経済学』など、多くの資料が頻繁に利用されており、学生の学習・研究に大いに役立っています。



学生表彰

♣ 学長賞・学長奨励賞 ♣

横浜市立大学では大学の名譽を高め、顕著な業績を上げた学生および団体に対して、「学長賞・学長奨励賞」として表彰を行っています。課外活動、学術、社会貢献、文化活動における業績を称え、学生活動の活性化に貢献しています。後援会からは副賞をお渡ししています。なお、平成23年3月17日(木)に予定されていた表彰式は、震災の影響で中止となりましたので、個別に授与を行いました。

平成22年度の学長奨励賞は、14th International Congress of ImmunologyにおいてJSI Young Investigators' Travel Award for 14th ICIを受賞した嶋秀明さんをはじめ、額田一利さん、福永久典さん、棚田壮太さん、近藤駿翼さんら様々な活動の業績が認められた5名を表彰。団体では、諸外国の子供たちへの学習支援ボランティア団体「トレボル@横市」と硬式野球部の2団体を表彰しました。

なお平成22年度は学長賞の該当はありませんでした。

♠ 成績優秀者特待生・伊藤雅俊奨学金奨学生表彰式 ♠

本制度は学業・人物ともに優秀な学部生に対し表彰を行う制度です。今年度は平成23年9月30日(金)、八景キャンパス大会議室において表彰式を執り行いました。

また、式典後は後援会の助成により懇親会を開催。学生・教員・保護者が懇親を深める良い機会となりました。



横浜市立大学では多くの学生が各自の興味や意欲に応じて、部活動やサークルなどの学生団体に所属し、日々積極的に活動しています。部活動は「学生自治中央委員会」の傘下に所属し、学生自治のもと自主的な運営を行っています。それら学生自治団体と大学は定期的にミーティングの場を設ける等、情報交換を行いながらサポートしています。

毎年秋には本学の学園祭である「浜大祭」が開催されます。例年、浜大祭実行委員会が中心となって多くの学生の手でさまざまな企画や催しが行われ、地域の方々をはじめとするたくさんの来場者を楽しませています。平成23年度は後援会の補助により、浜大祭をはじめとする学生団体のイベント用物品（テント、長机、椅子等）を購入。学生活動の支援を行っています。



第61回浜大祭 10/28(金)～10/30(日)



今年度のテーマは、「^{いちようかくめい}銀杏革命ーそして伝説へー」です。横浜市立大学を象徴する木である銀杏をテーマに、その横浜市立大学の学生が主体となり、第61回という次の10年の最初の浜大祭を新たな気持ちで創っていこうという思いが込められています。

また、「革命」という言葉を用いることで、学生たちの若い力で浜大祭に新しい風を生み出そうというメッセージも含んでいます。

壮大なテーマを達成させ、来てくださった全ての方々に楽しんでいただけるように、私たち浜大祭実行委員会一同、日々試行錯誤しながら活動しています。

そして、今年も浜大祭を無事に開催することができたのは、横浜市立大学の関係者の皆様、後援会や進交会・同窓会の皆様、また、協賛・後援していただいた企業の皆様、そして地域のご支援・ご協力によるものです。心より感謝いたします。

浜大祭実行委員会 委員長 佐々木 彩

軟式野球部



私たち軟式野球部は、人数が多い部活ではなく、練習の効率の悪さや選手に対する負担が大きな悩みとなっていました。しかし後援会からいただいた備品充実金のおかげでピッチングマシンを購入・練習の質を大幅に上昇させることができました。ピッチングマシンとは投手の代わりをする機械のことで、価格はどんなに安くても50万円はする非常に高価なものです。

このおかげで、南関東2部リーグで1位、さらには入れ替え戦において念願であった1部昇格を達成することができました。この結果は保護者・卒業生・教職員の方々の協力があったからこそ、と部員全員が感謝の気持ちをもって現在も練習に励んでいます。

これからも何とぞご支援のほど、よろしくお願いします。

軟式野球部代表 中村 圭介

私たちヨット部は、八景島、江の島、葉山町森戸海岸で活動しており、毎年秋に行われる全日本インカレ出場を目指し、日々練習に励んでいます。ヨットは自然を相手にするスポーツのため、万が一に備えて万全なレスキュー体制を整えておかねばなりません。これまでは古く、故障の多いエンジンを使用しており、レスキュー体制に不安を抱えながら練習していました。しかし、後援会から新しくレスキューボートのエンジンを買ってもらって以来、より万全なレスキュー体制になり、安心して練習に励むことができています。

昨年は、予選を突破し決勝に進出しましたが、あと一步のところまで全日本への切符を手に入れることができませんでした。今年は昨年の屈辱を晴らすため、新たなレスキュー体制とともに部員一丸となってより一層の努力をしていきます。

ヨット部主将 鎌田 若也

ヨット部



後援会支援

- ★課外活動団体への補助金
- ★備品購入のための特別補助

- ★浜大祭やYMF（医学部大学祭）開催補助
- ★関東甲信越体育大会（2011年度は中止）・首都大戦・東西戦などの大会補助



ジャグリングサークルしゃかりきパンダ

私達、しゃかりきパンダは週1～2回ジャグリングの練習を学内の野外ステージや八景小学校の体育館で行っています。他大学との合同練習もあり、やりたい人がやりたい時にやりたい道具でやりたい事をするという自由奔放な集団です！初心者・経験者問わず、先輩後輩の壁もなく、楽しく活動しています！！

練習だけでなく横浜を中心にジャグリングショーの公演もしています！ブログを通して公演依頼を受け、毎年、お祭りなどのイベントや保育園・

老人ホームなどの福祉施設で活動させて頂くほか、金沢動物園、市大病院などからも公演依頼があります。

春と夏には他大学との合同合宿もあり、5大学（国大・市大・東工大・青学・日大）が参加します。黙々と練習するのによし、お互いに教え合い技術を高めるのによし、交流を通して多くの人と知り合える機会です。

人前でパフォーマンスすることで技術が向上し、観客の方々にも楽しんで頂くことができ、私達自身の成長にもつながっています。

ジャグリングサークルしゃかりきパンダ代表 藤本 幸生

環境ボランティア Step Up ↑

環境ボランティアStep Up ↑は、2003年に発足した文化部連合会所属団体です。普段はなかなか気づかない環境の大切さを見つめなおしてみよう、自分にできることを考えてみよう、そんな思いを持った部員が集まり、今のStep Up ↑があります。「学生ができる身近な環境活動を考え、実行する」というコンセプトのもと、まずは大学からECOの気持ちが広がるように、小さなことから少しずつ活動を積み重ねてきました。

環境への取り組みは、一人の力では絶対にできません。だからこそ私達は、力を合わせて頑張っています。「身近な環境活動」をメンバー一人一人が考え、かつそれを楽しみながら実行していくなかで、いつかその小さな思いがStep Up ↑を超えていくことを信じ、日々活動をしています！

学祭での環境対策をはじめ、エコキャップ回収、環境月間イベント、そして最近では大学の外にまで活動範囲を広げ、現在も様々な企画を計画中です☆

詳しくはHPをご覧ください♪ URL : <http://ycu-stepup.jimdo.com>

環境ボランティアStepUp代表 門倉萌衣子



学生生活のサポート

経済支援

経済的理由により修学の継続が困難な学生に対しては、家計基準や学業成績を審査のうえ、経済困窮度の高い学生から順に授業料の減免を行っています。また、日本学生支援機構をはじめとする様々な奨学金の案内、手続きのサポートを行い、学生への経済的支援を行っています。

平成23年は東日本大震災において実家が被災した学生への支援の一環として、家屋の倒壊や経済的被害を受けた学生の授業料の免除や災害見舞金の支給を行いました。これにより多くの被災地出身の学生が経済的な支援を受けました。



健康管理

「保健管理センター」は心身ともに健康で充実した学生生活を送ることができるよう支援しています。4月の学生健康診断をはじめ、内科、精神科医による健康相談、ケガや軽い病気の応急処置を行うほか、必要に応じて病院の紹介などを行っています。また「学生相談室」では、勉強や身のまわりのこと、友人・家族に関することなど様々な悩み事や相談事に専門のカウンセラー（臨床心理士）が対応しています。

国際的な視野を持った人材を育成するため、海外での様々な学び・実践の場を用意しています。

授業として実施される海外フィールドワークをはじめ、海外の提携大学や横浜市の姉妹・友好都市にある大学への交換留学や語学研修などのプログラムがあります。また、海外企業での就業体験や国際ボランティア活動への参加もサポートしています。

海外フィールドワーク 支援プログラム

教員が学生を引率して海外で行うフィールドワークや、海外大学との国際交流を支援するプログラムです。

コース等	参加者	主な渡航先
国際文化創造	15	アメリカ (ニューヨーク)
	19	韓国 (ソウル、釜山)
人間科学	10	中国 (ハルビン)
国際経営	27	台湾 (台北)
	13	中国 (大連)
	19	中国 (上海)
政策経営	17	観光 (ソウル、仁川)
	11	タイ (バンコク)
ヨコハマ起業戦略	13	マレーシア (ペナン、クアラルンプール)
	25	スウェーデン (ラトビア、ウプサラ)
	17	中国 (香港、広州)
共通教養	各 15	アメリカ (ホノルル、ハワイ)
医学科・看護学科	6	ブラジル (ポルトアレグレ)
国際マネジメント専攻	12	ベトナム (ハノイ)
ゲノムシステム科学専攻	5	メキシコ (メキシコシティ、テスココ)

国際ボランティア

夏休み期間中に、世界約30カ国、約700にわたるプロジェクトから、自分の希望するプロジェクトを選び、参加するボランティアです。世界各国からの参加メンバーと協力して活動することができ、様々な考え方や価値観を共有することができます。このプログラムはTOEFLの日本事務局でもある国際教育交換協議会(CIEE)が提供しています。

H22派遣国実績：韓国、ベトナム、トルコ、フランス、ドイツ、アイスランド、イタリア、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、アメリカ、メキシコ他

学生海外派遣プログラム

横浜市の姉妹・友好都市にある大学や、学術交流協定を締結している海外の大学に学生を派遣しています。

語学研修 (英語) 4 週間	21	オックスフォード・ブルックス大学 夏期語学研修 (イギリス)
	20	カリフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD) 春期アカデミックスキル研修 (アメリカ)
語学研修 (中国語) 4 週間	6	上海市内大学語学研修 (中国)
夏期講座* *上級英語力を もって学部 授業を受講 5 週間	1	カリフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD) 夏期講座 (アメリカ)
長期派遣/交換留学 1 セメスターまたは 1 アカデミックイヤー	2	米国セメスター留学プログラム (アメリカ)
	3	上海師範大学交換留学 (中国)
	3	ウィーン大学交換留学 (オーストリア)
	3	仁川大学校交換留学 (韓国)

海外インターンシップ

2～4年生が、自分の専攻や将来のキャリアと関連した就業体験を一定期間行う制度です。

キャリア支援室を通じて、海外企業でのインターンシップを経験することも可能です。

国・都市	参加者	実習先
アメリカ・サンディエゴ	1	WORLD TRADE CENTER San Diego
アメリカ・ニューヨーク	2	TK Digital Corporation
アメリカ・ニューヨーク	1	Chacott Co.,Ltd.
アメリカ・ニューヨーク	1	Amnet New York Inc.
アメリカ・ニューヨーク	3	Weekly Business News Corp.
アメリカ・ニューヨーク	1	Johnman USA, Inc.
アメリカ・ロサンゼルス	1	Ocean Pacific Community Center
インド・バンガロール	1	Larsen & Toubro Infotech Limited
インド・プネ	3	Worldwide Infosoft Services Pvt. Ltd
インド・プネ	2	University of Pune
インド・ムンバイ	1	Cactus Communications Pvt. Ltd.
シンガポール	1	NEC Asia Pacific Pte. Ltd.

★海外研修プログラム渡航費補助

「海外フィールドワーク」・「海外留学・語学研修」・「海外インターンシップ」・「海外ボランティア」・「国際学会参加」

海外フィールドワーク支援プログラム

政策経営コース 4年 桑名 勇輔



昨今のメディアや書籍では中国の驚異的な成長によって、アジアでの日本の立ち居地が奪われるという危惧説が多く取り上げられています。一方で、一人当たりのGDPにおいて日本は抜かれておらず、国全体の豊かさ、国民の生活の質という視点から、私個人的には中国という国をそれほどまで重大に捉えていませんでした。しかし、今回の上海研修を終え、私は今大きな「焦り」を感じています。

車のナンバープレートを取得するために80万円近く支払わなければならないなど、実質的に徹底された資本主義的社会、その中で貪欲に前進している人々の姿に東京には無い活気を見ることができました。また中国人のキャリア形成において日系企業の存在感が薄いということを現地の日系企業の方から伺ったときには大きな衝撃を受けました。

急速に成長する中国を肌で感じることで、日本国民としての危機感を喚起されました。学生の間にこの「焦り」を感じることができ、本当に幸運だと思っています。今回の上海研修を提供して下さった藤野先生や大学後援会の皆様に感謝いたします。

学生海外派遣プログラム

オックスフォード・ブルックス大学（夏期語学研修）

環境生命コース 3年 堀 文香



英語で自然に会話ができる様になりたい、という思いから今回の語学研修への参加を決意しました。イギリスで1カ月寮生活をし、他国の学生と一緒に英語を学習することが出来るこのプログラムはとても魅力的なものです。

ただ、実際現地に行ってみると日本人の多さに驚きました。私のクラスは11人中9人が日本人という環境であり、「このままでは日本で英語を勉強するのと変わらなくなってしまう！」と焦りを感じた私は積極的に他国の学生や先生、お店の人などに話しかけることにしました。この作戦がうまくいき、生活の中で自然に英語を使用するようになり、「多少間違ってもいいから会話を楽しもう」と思える様になりました。互いの国のことを話したり、食事を作り合ったりと異文化交流も行い、本当に充実した日々を

過ごすことが出来ました。帰るころには先生にも「会話が上達したわね！」と言ってもらえて嬉しかったです。現在も向こうで仲良くなった友人達とは交流が続いており、それが英語を勉強する良いモチベーションになっています。

この素晴らしい経験は英語の能力だけでなく、自分自身を大きく成長させてくれたと感じています。このことを生かして自身をもっと高めていける様に努力していきたいと思います。



カリフォルニア大学サンディエゴ校（春期アカデミックスキル）

人間科学コース 2年 木村 里絵

サンディエゴで過ごした四週間は毎日が驚きの連続でした。この研修の目的は、現地の大学で講義を受けられるレベルに英語力を向上させることでした。そのために様々な授業を受けましたが、現地の大学生とディスカッションをするクラスでは、同世代の人と意見交換ができ、とても刺激的でした。また、先生方は活発で意欲的な人ばかりで、考えることを重視した授業が進められました。ひとつの事柄でも理由などを深く問われ、その度に自分の英語力では、言いたいことではなく言えることを言うしかなく、もどかしく感じることもありましたが、UCSDでの授業は将来教員を目指す私にきっと役立つと思います。

今回参加したプログラムでは、周りの環境に慣れることに精一杯でしたが、機会があれば夏期のプログラムに参加し、同じ場所でより成長した自分で現地の講義にチャレンジしてみたいと思います。ホストファミリーに再会する日まで、今回の体験を生かして、より一層英語の学習に力を入れていきたいと思っています。

海外インターンシップ



て喜んだり、さまざまな感情の渦に巻き込まれながらの毎日でした。自分の目で見たこと、肌で感じたこと、この経験でしか得ることのできなかったことを将来にむけて活かしていきたいと考えています。

最後に、このインターンシップ実習をサポートしてくださったキャリア支援室の方々、ならびに後援会の方々に厚く御礼申し上げます。

国際文化創造コース 2年 廣瀬 蘭那

あっという間の一カ月。私は長期休暇を利用してインドでのインターン研修に参加しました。

現地での経験は、とにかく刺激的で濃密でした。研修先では、実際に現地の人々とプランをたて、試行錯誤しながら、とりあえずやってみるのくりかえし。沢山の失敗も通して、社会人として働くということの責任、単に就職活動前の肩慣らしというレベルを超えて、将来の自分をイメージするよいきっかけとなりました。

現地の人々と一緒に暮らすなかで、文化の違いに驚いたり、自分の考えていることがうまく伝えられずに悔しい思いをしたり、その一方で、自分たちのプランがうまくいっ

国際ボランティア



英語や一人で外国へ行くことに対する不安は多くありましたが、私にとってこの2週間はとても充実したものになりました。今後は、このベトナムでの貴重な経験を生かし、さまざまなことに挑戦していきたいと考えております。サポートしてくださったキャリア支援室の方々、後援会の方々には、厚く御礼申し上げます。

国際総合科学部 1年 小泉 麻里

私は、もともとボランティアに興味があり、中学生のときは特別養護老人ホームなどでボランティアとして活動をしました。大学生になったら、国内だけでなく海外のボランティア活動も参加してみたいと考えていました。そこで、今回ベトナムでのプロジェクトへの参加を決めました。

派遣された施設では、農作業と施設の子供たちとの交流を行いました。日本よりも湿気の高い現地での雑草抜きや畑を耕す作業は大変でしたが、とてもやりがいがありました。子供たちの素直で、笑顔あふれる姿は印象的でした。言葉の壁はありましたが、一緒に遊んだことや簡単な足し算を教えたことは、良い経験となりました。



アカデミックコンソーシアム事業

2009年にアジアを中心に大学間ネットワークをつくり、各都市、国際機関などと協力しながら、都市が抱える問題の解決に取り組むことを目的としたアカデミックコンソーシアムを創設しました。この活動に各国の学生を引き込み、本学の学生とも深いレベルで交流を図ることで世界に羽ばたける人材を育成できると考えています。

アカデミックコンソーシアムを推進するため、本学にグローバル都市協力研究センター（GCI：Global Cooperation Institute for Sustainable Cities）を2011年に設立し、環境、まちづくり、公衆衛生の分野を中心に研究、プロジェクトを進めています。

◆ 役割・目的 ◆

アカデミックコンソーシアムは、国際機関からの支援を受けながら、アジアを中心とした都市にある大学の教員・研究者・学生・職員及び関連する機関が相互に連携し、情報やリソースの共有、議論、調査、研究、プロジェクトを実施します。「環境」「まちづくり」「公衆衛生」の3つのテーマで具体的な活動を展開し、持続可能な社会をめざして、都市の諸問題を解決し、地域や社会に貢献することを目標としています。

アカデミックコンソーシアム：都市問題解決に向けた知的ネットワーク



◆ グローバル都市協力研究センターとは ◆

グローバルな課題への対応や横浜国立大学の国際化推進のミッションを具現化するため設立された専門組織であり、プロフェッショナルなメンバーで構成されています。市大の強みである学術資源を集結し、「環境」「まちづくり」「公衆衛生」をテーマとしたアカデミックコンソーシアム事業を展開する等、外部資金獲得を含め、グローバルな都市課題の解決に取り組めます。

◆ 総会・シンポジウムを開催 ◆

2010年8月、第1回アカデミックコンソーシアム国際シンポジウム・総会を横浜で開催し、同年10月Eco2プログラム※を推進する世界銀行とアカデミックコンソーシアムがMOUを締結し活動の基盤を築きました。

2011年第2回は、メンバー大学であるマレーシア科学大学で開催し、アカデミックコンソーシアムの役割を共有するとともに、「環境」「まちづくり」「公衆衛生」のユニット毎に分かれて具体的な都市が抱える問題についてプレゼンテーション、ディスカッションを行いました。

2012年度はタイのタマサート大学で開催することが決定しております。

※Ecology（環境）とEconomy（経済）を両立させ、環境を破壊せずに経済を発展させ持続可能な都市を作っていくプログラム



アカデミックコンソーシアム国際シンポジウム（横浜）

◆ 国際会議等における学生の活躍 ◆

アカデミックコンソーシアムでは、学生にも広く門戸を開いており、2010年横浜での国際シンポジウムでは学生ネットワーク「INUS」等が国際会議の場でプレゼンテーションを披露し、高い評価を受けました。また、第2回開催国であるマレーシアでは、学生によるワークショップ、フィールドワークを行い、海外大学の学生との交流を図ることができました。

学生の参画をはじめとしたアカデミックコンソーシアムの活動を通して、グローバルな視野にたった教育が充実し、教職員、学生間の交流が深まることをねらいとしています。

「豊かな教養と専門能力を兼ね備え、国内のみならず世界の第一線で活躍できる人材を育成する」ことを目標に掲げ、個々の学生のキャリア・就職支援に積極的に取り組んでいます。

学生は、キャリア・就職に関する相談はもちろん、企業情報、OB・OG情報、就職関連書籍など役立つ情報を得ることができます。また、就職ガイダンス、公務員講座や合同企業説明会など就職活動支援に関する講座やさまざまなイベントに参加することができます。さらに、キャリア・アップを図るための資格取得支援制度や単位認定科目である国内・海外インターンシップ・プログラム、そして1年次から参加できる国際ボランティアプログラムなど、グローバルな視野を身につけるための幅広いキャリア支援を、受けることができます。

キャリア・就職支援の主な取り組み

キャリア・就職相談

専門のキャリアカウンセラーを配置し、個別性の高いキャリアの相談から履歴書やエントリーシートの書き方、模擬面接まで随時相談に応じています。



就職支援講座・イベント

合同企業セミナーや就職ガイダンス、公務員講座、大学院生対象文章講座など各種講座を随時開催しています。



インターンシップ

国内・海外問わず、また民間企業から官公庁まで幅広く、就業体験する場を提供します（2年次以上）。

国際ボランティア

世界約30ヶ国、約700にわたるプロジェクトから、希望するプロジェクトを選び、夏休み期間に2～3週間かけて参加するボランティアです。学年問わず参加できます。

キャリアサポーター制度



キャリアサポーター（本学OB、OG）は、現在約500名登録いただいております。毎年「キャリアサポーターと学生の集い」を開催し、在校生の就職支援を行っています。

キャリアメンター制度

就職が内定した4年生／修士2年生が自己の経験をもとに、3年生／修士1年生に対してマンツーマンで相談・指導する制度です。

資格取得支援制度

英検、簿記、各種語学検定等をはじめとした資格を取得した学生に、受験料の半額、さらに一定のスコアをクリアした学生に報奨金を助成するプログラムです。



書籍・DSソフトの貸出し

キャリアに関する書籍や各種雑誌（日経ビジネス等）、各種新聞、SPIやTOEICなど資格対策のDSソフトを購入、学生に貸出ししています。

キャリア・ネットポータル

本学学生専用のWEBサイトです。入学から卒業までオンライン上でキャリア・就職支援をするシステムとなっております。キャリアシートの登録をすると、専門のキャリア・コンサルタントによるマンツーマン指導を実施。また、国際ボランティアおよびインターンシップ参加者は手続きの進捗状況の確認ができます。希望進路を登録することで求人票の案内メールやメールマガジンの配信を設定、進路決定後は、卒業後の進路登録をすることができます。

後援会支援

★「文章講座」等就職支援講座助成

★「キャリアサポーター」「キャリアメンター」制度助成

★資格取得受験料補助・報奨金

★雑誌・書籍など就職関連助成

入学から卒業までの支援の流れ

支援内容	1年	2年	3年	4年
キャリア	新入生オリエンテーション	キャリアデザイン実習 キャリア面談		進路報告
			就職・進路相談	
		DS・書籍貸出し		
		キャリア・ネットポータル活用		
就職			就職ガイダンス 合同企業セミナー キャリアメンター制度 キャリアサポーターとの集い	
			OB・OG訪問（キャリアサポーター制度）	
			公務員講座	
		後援会による資格取得助成制度		
資格取得			国内・海外インターンシップ	
課外活動		国際ボランティア		

資格取得

国際経営コース 4年 伊藤 シオン



資格取得の助成金・報奨金の存在を知らない方もいらっしゃるのではないのでしょうか。わたしもその一人でした。

今回、TOEFLとTOEICの支援をしていただきましたがわたしは米国への大学院留学をするなどのキャリア形成のためにこれらに自主的に取り組んできました。取得後、案内を見て申請することとなりましたが、学生の努力や成果を評価し報いしてくださる制度があることに感謝しつつ、それが教育の最も重要な役割だと再認識することとなりました。

大学生であるわたしたちにとって自分自身に投資することは将来のキャリアにとって非常に重要ですから、支援して下さった助成金・報奨金も社会人としてレベルアップするために利用していくとよいと思います。ぜひみなさんも貴重な大学生活を送り、それぞれが持っている

目標を実現するために必要な資格を取得することを勧めます。この支援を利用することによってさらに目標に向かって進んでいけるのではないかと思います。

文章講座

生命ナノシステム科学研究科 博士前期課程2年 高橋 藍



横浜市立大学では様々な就職活動に関するセミナーが開催されています。そのひとつとして、文章講座ではエントリーシートの書き方についての指導を仰ぎます。他にも学生の要望に合わせて、各種セミナーが開催されており、その援助をして下さっているのが、公立大学法人横浜市立大学後援会です。

民間の就職支援サービスを受けることも可能ですが、金銭面での負担や時間の制限もあるため、十分にサービスを受けることが困難な場合があります。しかし、後援会では横浜市立大学の学生の状況を変えてよく理解した上で、まさに痒い所に手が届くようにサービスを提供して下さいます。

この就職難と言われている今日、就職活動に対して、何も対策をしないという訳にはいきません。特に時間に制限のある大学院生は誰しもが就職活動に不安を感じる部分があると思います。だからこそ、自分たちの状況を一番よく知っている大学に属する後援会が就職セミナーを開催して下さることは、私達学生にとって大変意義のあるものとなります。

また、後援会は就職セミナーだけではなく、資格取得や学会の助成など皆が必ず関わる行事も助成して下さいます。そういった意味で、全学生にとって後援会はさらに身近な存在であります。

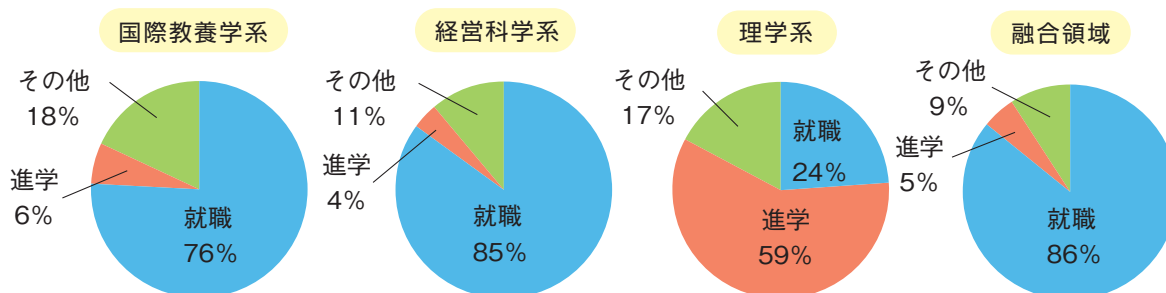
最後にこの場をおかりして、後援会の皆様をはじめ、セミナーにて指導をして下さる講師の方々、また、貴重なお話を下さる本学のOB・OGの方々に対して、心より深く感謝申し上げたいと存じます。



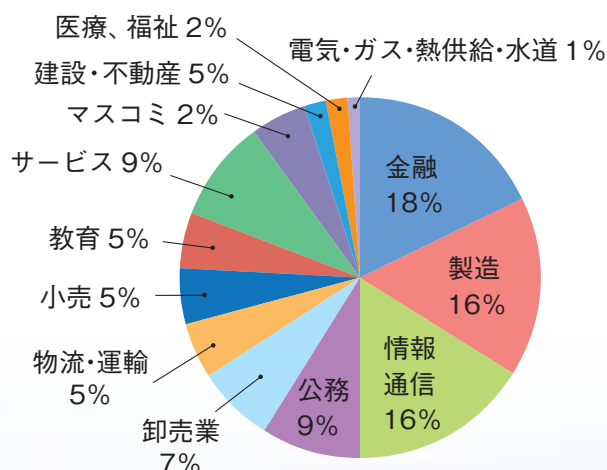
卒業生進路

就職をはじめ、大学院への進学や留学、資格取得の専門学校へ通うなど、卒業後の進路は様々です。経営科学や国際教養、融合領域など文系の学生は80%以上が就職を希望し、就職内定率は例年9割を超えていますが、理系は半数以上(59%)の学生が進学し、就職は24%にとどまっています。就職先は、金融、製造、情報通信の3業種でほぼ半数を占め、公務員がそれに続いています。様々な業界に分かれ、卒業生の活躍は、職場でも高い評価を受けています。また、横浜市役所や横浜銀行など、横浜市内で働くことを希望する学生が多く、地域社会への貢献に力を注いでいます。

	就 職 (人)	進 学 (人)	その他 (人)
国際教養学系	154	13	36
経営科学系	263	11	34
理学系	29	70	20
融合領域	85	5	9



No.	業 種	人 数
1	金融	92
2	製造	83
3	情報通信	81
4	公務	48
5	卸売業	36
6	物流・運輸	28
7	小売	25
8	教育	23
9	サービス	47
10	建設・不動産	27
11	マスコミ	10
12	医療・福祉	8
13	電気・ガス・熱供給・水道	6
14	その他	2



主な就職先
横浜市役所
株式会社横浜銀行
楽天株式会社
神奈川県庁
東日本電信電話株式会社
野村證券株式会社
ソフトバンク株式会社
株式会社ニトリ
株式会社八十二銀行
株式会社臨海セミナー
公立大学法人横浜市立大学
住友生命保険相互会社
全日本空輸株式会社
大和証券株式会社

主な進学先
横浜市立大学大学院
東京大学大学院
東京工業大学大学院
名古屋大学大学院
筑波大学大学院
大阪大学大学院
横浜国立大学大学院
早稲田大学大学院
一橋大学大学院

平成22年度決算 <H22.04.01～H23.03.31>

【一般会計】

収支計算書

H22年4月1日からH23年3月31日まで (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
【収入の部】			
会 費 収 入 (1)	41,910,000	41,970,000	60,000
会 費 収 入 (2)	3,000,000	3,427,480	427,480
雑 収 入	556,232	611,696	55,464
当期収入合計(A)	45,466,232	46,009,176	542,944
繰越収支差額	10,904,064	10,904,064	0
収 入 合 計 (B)	56,370,296	56,913,240	542,944
【支出の部】			
学 生 活 動 助 成 費	6,510,000	6,564,636	54,636
学 習 助 成 費	13,550,000	13,557,510	7,510
キ ャ リ ア 支 援 費	2,700,000	2,361,505	△338,495
海 外 研 修 支 援 費	13,880,000	11,225,565	△2,654,435
研 究 活 動 支 援 費	550,000	455,250	△94,750
福 利 厚 生 費	3,080,000	1,043,777	△2,036,223
広 報 誌 発 行	2,400,000	2,304,686	△95,314
ホ ー ム ペ ー ジ	0	105,840	105,840
会 議 費	700,000	656,335	△43,665
通 信 費	600,000	505,105	△94,895
事 務 局 費	1,500,000	1,449,556	△50,444
教育設備資金特別会計	5,000,000	5,000,000	0
当期支出合計(C)	50,470,000	45,229,765	△5,240,235
当期収支合計(A)-(C)	△5,003,768	779,411	5,783,179
次期繰越収支差額(B)-(C)	5,900,296	11,683,475	5,783,179

【教育設備資金特別会計】

収支計算書

H22年4月1日からH23年3月31日まで (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
【収入の部】			
受 取 利 息 収 入	30,000	21,850	△8,150
繰 入 金 収 入	5,000,000	5,000,000	0
当期収入合計(A)	5,030,000	5,021,850	△8,150
繰越収支差額	35,261,189	35,261,189	0
収 入 合 計 (B)	40,291,189	40,283,039	△8,150
【支出の部】			
教 育 環 境 整 備	20,000,000	6,613,908	△13,386,092
当期支出合計(C)	20,000,000	6,613,908	△13,386,092
当期収支差額(A)-(C)	△14,970,000	△1,592,058	13,377,942
次期繰越収支差額(B)-(C)	20,291,189	33,669,131	13,377,942

貸借対照表

平成23年3月31日現在 (単位:円)

科 目	金 額
【資産の部】	
流 動 資 産	
現 金 預 金	33,669,131
流 動 資 産 合 計	33,669,131
資 産 合 計	33,669,131
【負債の部】	
流 動 負 債	
【正味財産の部】	
正 味 財 産	33,669,131
(うち当期正味財産減少額)	(1,592,058)
負債及び正味財産合計	33,669,131

貸借対照表

平成23年3月31日現在 (単位:円)

科 目	金 額
【資産の部】	
流 動 資 産	
現 金 預 金	11,683,475
流 動 資 産 合 計	11,683,475
資 産 合 計	11,683,475
【負債の部】	
流 動 負 債	
【正味財産の部】	
正 味 財 産	11,683,475
(うち当期正味財産増加額)	(779,411)
負債及び正味財産合計	11,683,475

監査報告書

公立大学法人横浜市立大学後援会会則、第8条(7)の規定により、平成22年度事業報告並びに決算書類を監査した。その結果は、事業報告は妥当であり、その会計処理は財産及び収支の状況を正しく表示していると認める。

平成23年6月3日

監事:大村守一・渥美朋子

【教育資金特別会計】

収支計算書

H22年4月1日からH23年3月31日まで (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
【収入の部】			
受 取 利 息 収 入	10,000	14,400	4,400
当期収入合計(A)	10,000	14,400	4,400
繰越収支差額	30,000,000	30,000,000	0
収 入 合 計 (B)	30,010,000	30,014,400	4,400
【支出の部】			
生 活 環 境 整 備	20,000,000	10,954,482	△9,045,518
当期支出合計(C)	20,000,000	10,954,482	△9,045,518
当期収支差額(A)-(C)	△19,990,000	△10,940,082	9,049,918
次期繰越収支差額(B)-(C)	10,010,000	19,059,918	9,049,918

貸借対照表

平成23年3月31日現在 (単位:円)

科 目	金 額
【資産の部】	
流 動 資 産	
現 金 預 金	19,059,918
流 動 資 産 合 計	19,059,918
資 産 合 計	19,059,918
【負債の部】	
流 動 負 債	
【正味財産の部】	
正 味 財 産	19,059,918
(うち当期正味財産減少額)	(10,940,082)
負債及び正味財産合計	19,059,918

6月25日 後援会総会が開催されました

平成23年の総会が6月25日(土曜日)、八景キャンパス・カメリアホール(350席)で開催されました。今年は、後援会総会開催前に、キャリア支援室との共催によりマイナビ編集長望月一志氏による、「保護者向け就職説明会」を実施いたしました。就職活動の現状について、3年生・4年生の保護者の皆さまが多数聴講されました。総会では、平成23年度の役員人事をはじめ、平成22年度決算報告、23年度予算案について映像を取り入れ、解かりやすい説明がおこなわれました。議案決議後には、3月11日の大震災時における状況報告及び、その後の大学の対応について報告がなされ、ご参加の皆さまは熱心に耳を傾けられていました。総会終了後は、例年通り、大学生協食堂で懇親会が開催されました。大学より、学長、局長、後援会常務理事の岡田学部長をはじめ、各行一ス長、研究科専攻長等、多数の教員の参加をいただき、保護者会員の皆さまとの和やかな交流の場となっておりました。また、年会員としてご参加いただきました卒業生の方々には、同窓の皆さまや旧教員の方々と懐かしい出会いの場となったことと思います。来年も多くの会員の皆さまのご参加を賜りますよう、お願い申し上げます。

公立大学法人横浜市立大学後援会会則

(名 称)

第1条 本会は公立大学法人横浜市立大学後援会と称する。

(目的及び事業)

第2条 本会は横浜市立大学の教育研究事業および学生生活の支援等を行うことを目的とする。

第3条 本会は第2条に定める目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 学生の教育研究活動への助成
- (2) 学生の学業、課外活動および福利厚生事業に対する助成
- (3) 学生の国際交流事業に対する支援
- (4) 学生教育に関する講演会・研究会等の開催
- (5) その他目的達成に必要と認められる事業

(会員及び役員等)

第4条 本会は次の会員をもって構成する。

- (1) 横浜市立大学に在学する学生(医学部2年次以上及び医学研究科を除く)の保護者または学生本人(以下「1号会員」という)
- (2) 横浜市立大学の卒業生及び教職員並びに退職者で本会の事業を支援する者(以下「2号会員」という)
- (3) 本会の事業を賛助する者(以下「3号会員」という)

第5条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副 会 長 2名
- (3) 常務理事 1名
- (4) 会計理事 1名
- (5) 理 事 30名以内
- (6) 幹 事 5名以内
- (7) 監 事 2名以内
- (8) 顧 問 若干名

(役員の選出)

第6条 前条に定める役員のうち、会長、副会長、常務理事、会計理事は、理事の互選により選出する。理事、幹事、監事は会員の中から理事会の承認を得て、会長が委嘱する。

第7条 役員の任期は4年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者は前任者の残任期間とする。

第8条 役員の任務は次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、業務を総理する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
- (3) 常務理事は会長、副会長を補佐し、本会の一般業務を掌理する。
- (4) 会計理事は、本会の会計を処理する。
- (5) 理事は、本会の業務運営について審議する。
- (6) 幹事は、本会の一般業務を処理する。
- (7) 監事は、本会の業務および会計を監査する。

第9条 本会は大学との連絡を密にするため顧問を若干名置くことができる。

2. 顧問は、理事会の承認を得て会長が委嘱する。
3. 顧問は、会長の諮問に応じるとともに会長の求めにより理事会に出席して意見を述べるができる。

第10条 本会の事務を処理するために書記等の職員を置く。

2. 職員は、理事会の承認を得て会長が委嘱し、有給とする。

(会議等)

第11条 本会の会議は、総会および理事会とする。

2. 総会および理事会の議長は、会長をもって充てる。

第12条 総会は、第4条に規定する会員の出席により年1回開催し、事業報告、事業計画、予算、決算、役員の選任及びその他本会の運営に関し必要と認められる事項について審議する。

2. 会長は必要と認めるときは、臨時総会を開催することができる。
3. 総会は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

第13条 理事会は、第5条に掲げる役員をもって構成する。

2. 会長は必要と認めたとき理事会を開催する。

第14条 理事会は、事業計画(案)、予算(案)、決算(案)及び会の運営に必要な事項につき審議する。

第15条 理事会は、理事の半数以上の出席で成立する。ただし、出席できない場合は、委任状をもってこれに代えることができる。

2. 理事会の議事は出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

(会 計)

第16条 本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。

第17条 本会の会員の会費は、次のとおりとする。なお、既納の会費は返還しない。

(1) 1号会員

学部においては学生1人につき、50,000円(但し医学部1年次生については15,000円)

大学院博士前期課程および博士後期課程においては院生1人につき、30,000円(但し博士前期課程より博士後期課程に進学した者にあては20,000円とする)

(2) 2号会員 年会費3,000円以上(1口1,000円、3口以上)

(3) 3号会員 年会費5,000円以上

2. 1号会員は、学生(院生)の入学時に会費を納めるものとし、2号及び3号の者は毎年、年度内に納めるものとする。
3. 2号会員並びに3号会員が、前項の定める会費を年度内に納めない時は、その資格を失う。

第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第19条 この会則の改正は、総会で行う。ただし、改正を議決するには、出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

附則

1. 本会則は、平成17年4月1日から施行する。

2. 平成17年4月1日現在、会員である学生の保護者は、当該学生が卒業するまでの間は、会員とする。

附則

(施行期日)

1. 本会則は、平成19年6月2日から施行する。

附則

(施行期日)

1. 本会則は、平成22年6月26日から施行する。

事務局より

保護者会員の皆さまにおかれましては、横浜市立大学生の有意義な学生生活支援の為、今後とも変わらぬで協力いただきたくお願い申し上げます。また、ご卒業生、教職員、旧教職員の方々におかれましては、年会員として、ご協力賜われますようお願い申し上げます。

なお、News Letterのバックナンバーを後援会のホームページ(<http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/>)でご覧いただくことができます。また、横浜市立大学ホームページの「保護者の方へ」「卒業生の方へ」のページにある後援会バナーからもリンク可能です。

公立大学法人横浜市立大学後援会事務局

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2 横浜市立大学内

TEL: 045(787)2397 e-mail: kouenkai@yokohama-cu.ac.jp

URL: <http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/>